

(4) ヤグラタケ (キシメジ科ヤグラタケ属)

場 所：佐賀市北山ダム

期 日：平成22年7月31日

ツチカブリ、シロオニタケモドキ、ツルタケ、ハイカグラ
テングタケ、クサハツモドキ、キイボカサタケ、アワタケ、
ミドリニガイグチなどを見つけながら、北山ダム周辺の遊歩
道を歩いていると、遊歩道横の土手に、腐ってぼろぼろにな
った黒いきのこの上に、小さなかわいい白いきのこが乗って
いるのを発見しました。図鑑でしか見たことがなかったヤグ



ラタケでした。下の黒いきノコは、クロハツモドキです。夏から秋にかけてクロハツ、クロハツモドキ、コ
ゲイロハツタケなどのベニタケ科だけでなく、チチタケ属のツチカブリ、ケシロハツなどの老菌の傘上に発生
するそうです。今まで、長崎県内の各地にきのこ探しに行きましたが、出会ったことがなく、ぜひ見つけたい
きのこの一つでした。ここまで、来た甲斐がありました。クロハツモドキは、長崎市小ヶ倉水源地でも見つけ
たので、時期が合えば、クロハツモドキに乗ったヤグラタケと出会えるかもしれません。

傘の色は初め白色で、後には淡黄褐色となり、古くなってくると傘が粉状の
厚膜胞子でおおわれるようになってくる。ひだは若いうちのみはっきり見ら
れ白色で厚い。並び方は疎で柄に直生する。



キシメジ科ヤグラタケ属のキノコは、このヤグラタケと、柄
の細長いナガエノヤグラタケの2種が知られるのみという。た
だしナガエノヤグラタケは比較的まれだそうです。

※ナガエノヤグラタケの特徴

- ・ヤグラタケより子実体が小さく、カサの表面が絹糸状である。
- ・成熟したカサ表面に厚膜胞子を形成しない。
ヒダ部で平滑な厚膜胞子を形成する
- ・寄主のベニタケ属を黒くミイラ化させない。

【厚膜胞子】とは

真菌が過酷な環境に耐えて生存するためのもので、菌糸の先端または中間部の細胞
が大きくなり、細胞壁が二重の厚さになった無性胞子である。

成熟後に飛ばされる構造を持たず、分散して発育・増殖する胞子とは別である。菌
糸がそのまま存在する限りはそこにとどまる。そのため胞子の名は持っているが、
一般のそれとは異なり、散布体としての意味は大きくないと思われる。

出典：<http://www.weblio.jp/content/%E5%8E%9A%E8%86%9C%E8%83%9E%E5%AD%A0>

出典：

<http://kinoko-ya.sakura.ne.jp/00jap/yaguratake2.htm>

<http://dokitto.com/database/D-yaguratake.html>

<http://www.afftis.or.jp/kinoko/201.htm>

http://toolate.s7.coreserver.jp/kinoko/fungi/asterophora_lycoperdoides/index.htm

http://www.ippon.sakura.ne.jp/kaihou_ippon/ippon_kiji/no14_02.htm